



「鍼灸」は「効果」があるのか？

第6回 通電治療：新しい鍼灸治療の方向へ

琉球治療院 関 忠雄

1. 以前の鍼灸の手技

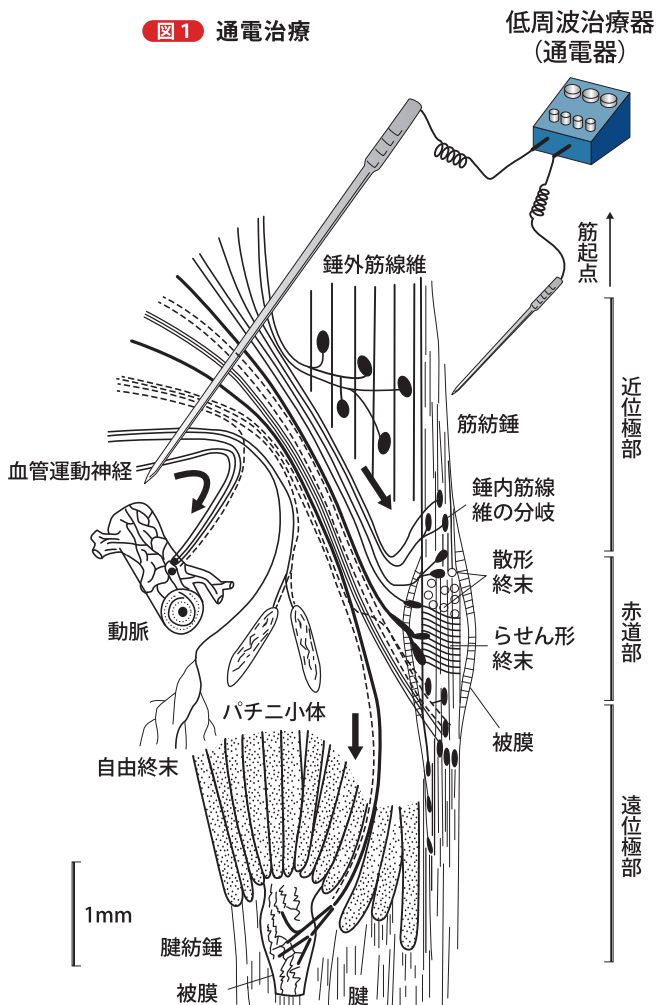
- ① 単刺術…そのまま1本の鍼を刺入する手技。
- ② 雀啄術…鍼を刺入した後で雀が餌を啄むように細かく抜き差しする手技。
- ③ 置鍼術…鍼を刺入した後そのまま置いておく手技。

2. 鍼麻酔の登場

国共合作（中国国民党と中国共産党の提携・協力体制）・日中戦争・国共内戦を経て中華民国政府を台湾へ放逐し、毛沢東が中華人民共和国（1949年10月1日成立）の初代国家主席となりました。当時中国は世界に自国を売り出す必要がありました。そのために鍼の分野では「鍼麻酔」が盛んに宣伝されました。日本でも倉島宗二先生と米山博久先生が中国政府の招待を受け、中国の鍼の先生方と「鍼麻酔」について論議が行われたということです。

倉島先生は中国から帰った後、中国の鍼の詳細な解説を日本の鍼灸師向けの雑誌に書かれました。しかし「鍼麻酔」は個人の感覚に強く依存していたために麻酔効果が弱く、急速に鍼灸師や一般の方から忘れられ

図1 通電治療



3. 「通電治療」と「以前の手技」の相違

ていきました。一方、そのとき使われた「通電治療」は独自の手法として存続しています。

単刺術で効果が弱いとき、より効果を高めるため雀啄術が使われるのですが、その響きには個人的好みが強くなります。この響きがないと鍼を受けた気がしないという人もいれば、あの響きはとても嫌だという人もいます。そしてその中間的な手技として置鍼術が考え出されました。刺激の強弱は鍼を置く時間によって調整できるので多くの鍼灸師に使われています。

通電治療は神経組織を鍼で刺激するという効果と同時に、治療器の弱電流によって筋組織も振動させることでマッサージ効果も得られます。鍼の効果とマッ



関 忠雄 Tadao Seki

1949年 長野県生まれ
 1973年 中央大学法学部卒業
 1978年 早稲田鍼灸専門学校卒業／倉島宗二師に師事 臨床鍼灸学を研修
 関鍼灸治療室を開設
 2003年 新潟大学医学部第一解剖学教室で末梢神経(自律神経:迷走神経)解剖を研修
 2005年 佐野動物病院にて獣医学を研修
 2006年 名古屋市れもん鍼灸接骨院院長
 2013年 アルゼンチン(F・バレイラ)鍼灸院院長
 2018年 アルゼンチンから帰国
 2019年 琉球治療院勤務

サージの効果と同時に期待できるのが通電治療です。以前、倉島宗二先生に以前の手技の代わりに通電治療を使われるのはどうしてなのか聞いたことがありません。そのとき先生は、「単刺術と雀啄術と同じ次元で治療する施術者の手間が省けるから」と答えられました。私が鍼治療の効果とマッサージの効果が同時に得られると確信できたのは、それからずいぶん時間が経ってからでした。

4・通電治療の鍼灸の実際

① 複視

私は以前いたアルゼンチンで、眼科分野の「複視」の患者さんに、眼球近くの筋肉を通電器を利用して振動させ、間接的に動眼神経を刺激する治療を行いました。複視とは単一の物体が二つに見えることで、複視は単眼性のこともあれば両眼性のこともあります。単眼複視は片方の眼を開けているときだけ起こります。両眼複視は片方の眼を閉じれば消失する症状を呈します。通電治療では動眼神経を刺激することも可能です。

② 迷走神経への刺激

迷走神経とは脳の延髄から出ている末梢神経の一つで頸部・胸部・腹部に達して多くの内臓に分布しています。大部分が副交感神経からなり、平滑筋の運動や腺の分泌運動を調節します。

人の身体は交感神経と副交感神経からなる自律神経によって支配され、活動しているときに交感神経が働き、リラックスしているときには副交感神経が働きます。迷走神経が刺激されてリラックス状態に切り替わると、急激に心拍数が減少し血圧も下がっていきます。

意識を保つには脳への十分な血液量が必要なため、急激に心拍数や血圧が低下すると脳への血液量が減ってその結果意識を失う結果になります。これが血管迷走神経反射です。このために迷走神経を適正に保つことは身体にとっても大切なことなのです。通電治療は効果的に迷走神経を刺激できます。頸部への「通電治療」は迷走神経を刺激すると同時に頸部の筋への振動を加えられるのでさらに効果的です。ヨーロッパ医学の注射針は頸部にこのような操作を加えることができます。微妙な刺激を迷走神経に加えるという手技は鍼刺激の独特なものと思われ、頸部への刺激で気をつけることは内出血です。頸部の外側は静脈にあたる確率が高いため喉骨に近い部分に刺激することで内出血を防ぐことが可能です。



写真1 頸部への刺鍼

5・通電治療の鍼灸の応用分野

① 腹直筋への刺鍼

② 顔面神経への刺鍼

③ 頸部への刺鍼(頸部の痛みと目まい・眼精疲労)

④ 坐骨神経への刺鍼(坐骨神経痛)

…など多くの刺鍼分野があります。今後より詳細に考察し応用分野の確認と拡大の必要があると思われるです。